

◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症(O111(VT1VT2))の報告が1例あります。第24週(6月14日～6月20日)から5週続けて各1～2例の報告があり、本年の累積報告数は12例となっています。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は、2.78(114例)で、先週に比べやや減少していますが、依然として過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、5歳が19.3%(22例)と最も多く、次いで2歳が18.4%(21例)で、1歳～6歳が83.3%を占めています。行政区別では、南区の定点当たり報告数が6.67(20例)と最も多く、次いで左京区が3.50(14例)となっています。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.46(19例)で、先週の2倍以上となり、過去5年平均値を上回っています。夏季に報告数が増加しますので、今後の動向に注意が必要です。年齢階級別では、5歳が21.1%(4例)と最も多く、次いで6歳が15.8%(3例)となっています。

◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、3.24(133例)で、4週連続で大幅に増加し、本年度で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 2例【1月以降の累積報告数 12例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.71	152
	② ヘルパンギーナ	3.24	133
	③ 手足口病	2.78	114
	④ 水痘	1.20	49
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.95	39
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

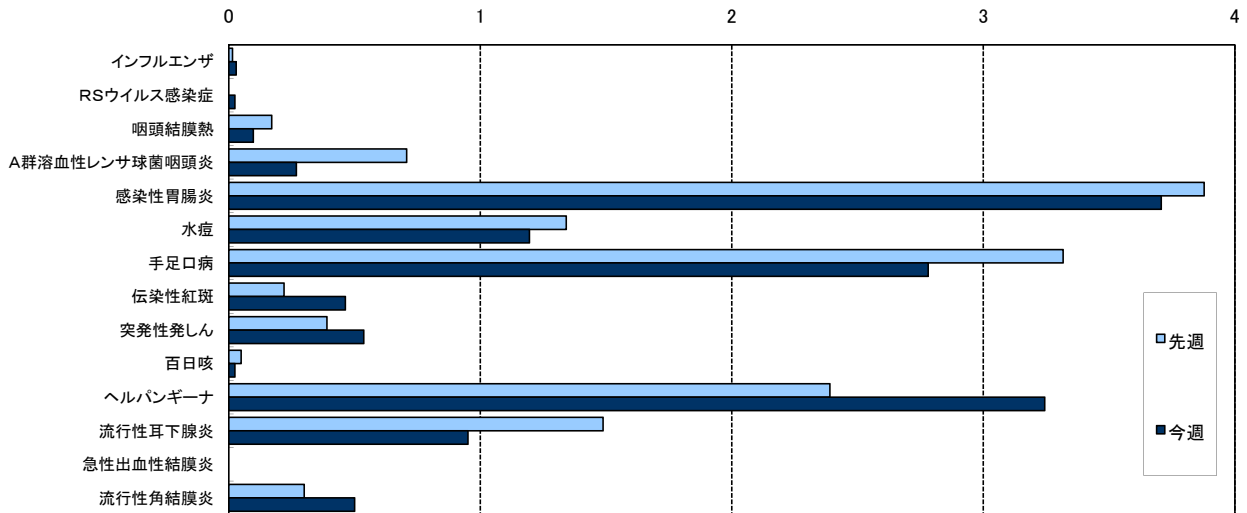
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

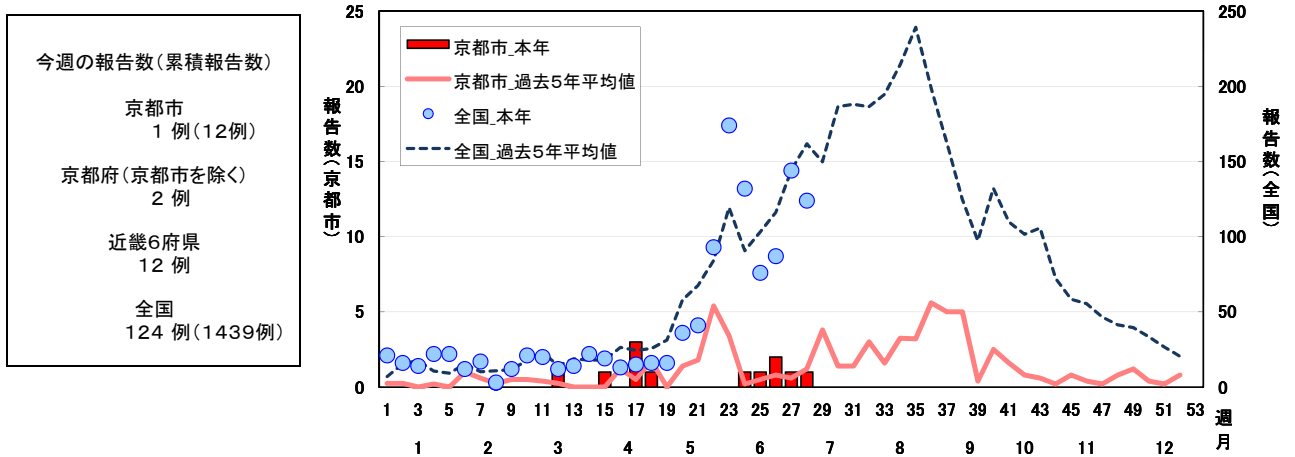
(注) 京都市のデータは、平成22年7月22日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第28週)と先週(第27週)の定点当たり報告数の比較

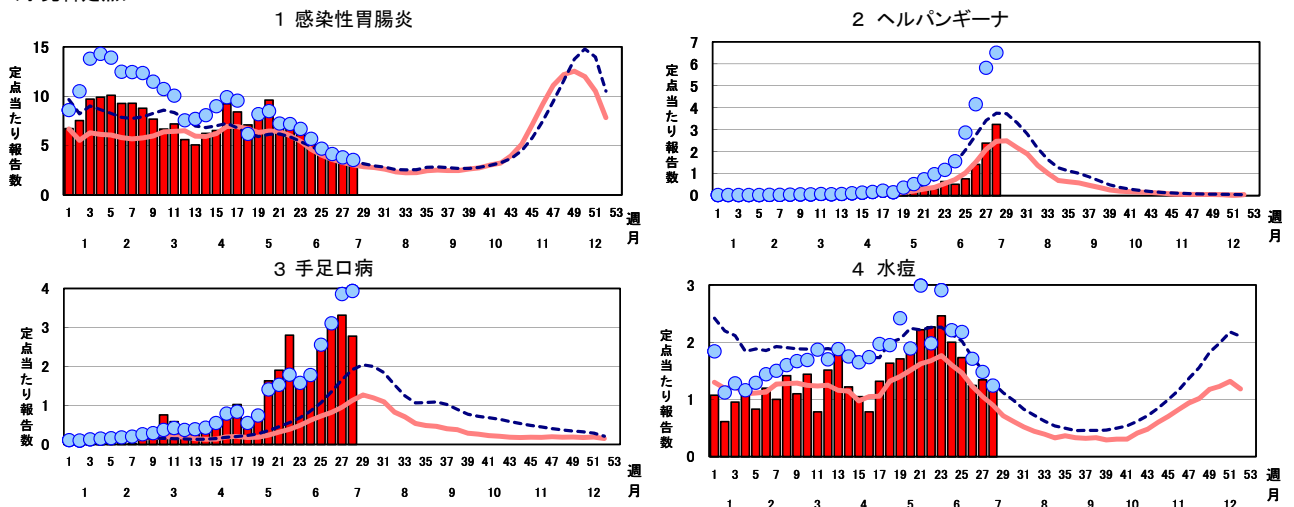


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

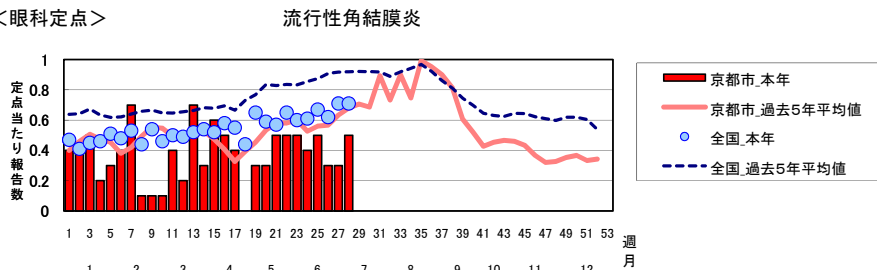


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第28週(7月12日～7月18日)トピックス: <ヘルパンギーナ>

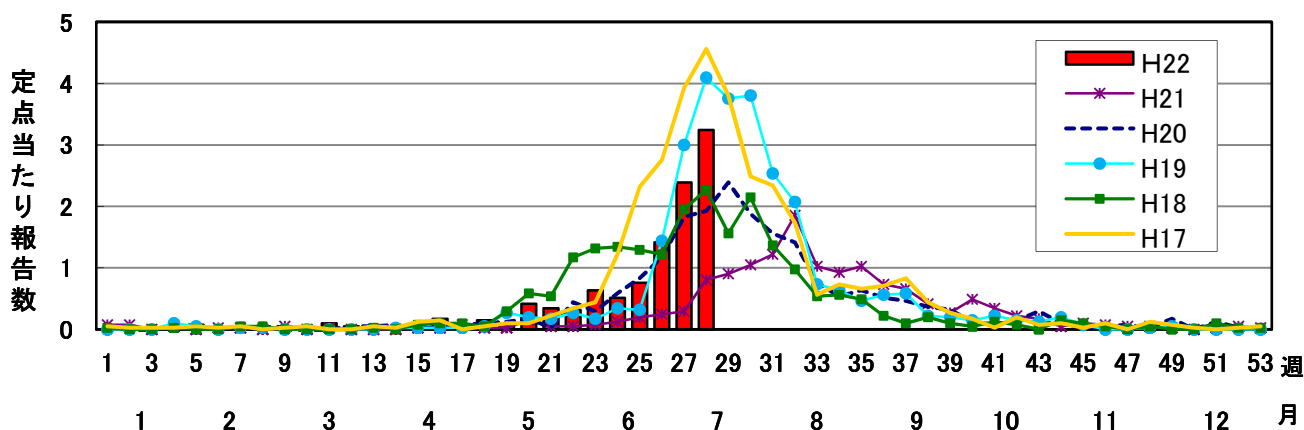
ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、3.24(133例)で、本年度で最も多くなっています。過去5年間では第28週～第32週(7月9日～8月9日)にピークを迎えています。今後の動向にご注意ください。

第28週の報告数としては、過去5年と比較すると、平成17年、平成19年に次いで多くなっています。

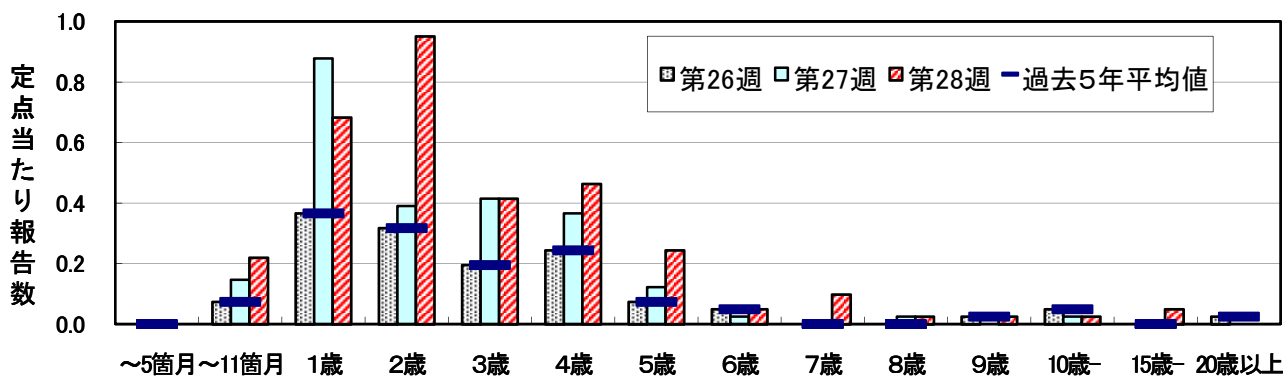
年齢階級別の推移をみると、先週は1歳が大幅に増加しましたが、今週は、2歳が多くなっており、1歳～5歳が全体の85.0%(113例)を占めています。

行政区別では、11行政区のうち9行政区から報告があります。特に、南区(17.3)が多くなっています。

本市の定点当たり報告数の推移(平成17年～平成22年第28週)



年齢階級別定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移

